

平成 26 年度第 1 回弘前市立郷土文学館運営委員会会議録（要旨）

日 時 平成 26 年 12 月 17 日（水） 午後 2 時 45 分 開会

午後 3 時 40 分 閉会

場 所 弘前図書館 2 階会議室

出席者 委 員 船越 素子 委員長 、 斎藤 三千政 副委員長

松田 左衛子 委員 、 山本 和之 委員

鈴木 真枝 委員

郷土文学館 理事兼館長 宮川 慎一郎 、 総括主査 若城 真佐人

主 査 村上 光人 、 企画研究専門官 館田 勝弘

会議次第

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 会 議

＜案 件＞

（1）郷土文学館事業実施状況（平成 25 年度）について

（2）郷土文学館事業計画等（平成 26 年度）について

（3）その他

4 理事兼郷土文学館長あいさつ

5 閉 会

事務局 ただいまから、平成 26 年度第 1 回弘前市立郷土文学館運営委員会を開催します。
開会にあたりまして、委員長からあいさつをお願いします。

委員長 （あいさつ省略）

今日、初めてお会いした方もいますので、委員の皆様に、1 人ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。

（各委員あいさつ）省略

事務局 本日の会議には 5 名の委員が出席しておりますので、郷土文学館条例第 13 条第 2 項の規定により、会議は成立いたします。また、同条例第 12 条第 3 項の規定により、委員長が議長となって会議を進めていただきます。船越委員長、よろしくお願いいたします。

委員長 ただいまから、平成 26 年度第 1 回弘前市立郷土文学館運営委員会を開会いたします。

委員長 それでは、本日提案されております案件について、事務局より説明をお願いします。

〔案件1 郷土文学館事業実施状況（平成25年度）について〕

事務局説明。

委員長 案件1について、御質問、御意見等ありませんか。

委員 観覧者数について、25年度は少なくなっているのが気になるのですが、本年度はそれを上まわる見通しはあるのでしょうか。

事務局 平成26年度の上半期の観覧者数は、2,064人で、前年度よりも9%増となっております。

委員長 次に、案件2について、事務局より説明をお願いします。

〔案件2 郷土文学館事業計画等（平成26年度）について〕

事務局説明。

委員長 案件2について、御質問、御意見等ありませんか。

委員 前年度より9%増については、どのようにお考えでしょうか。

事務局 平成25年度観覧者数が減になったのは、「長部日出雄展」の前年企画展「寺山修司展」ですけれども、観覧者数が例年に比較して多かった。やはり、PRの仕方に違いが出ていると思います。今回は、「高木恭造展」でもう少し入るのではないかと予想しています。12月からは、角火鉢（高木恭造遺品）を追加展示しています。

委員 館田専門官、委員を始めとして、斎藤先生とか鎌田先生とかいろいろな方々が講座を開いて、すごい努力をされているとうことで、それで9%は。もっと増えていると期待していたものですから以外に少ない。PRの仕方にひと工夫が必要ではないか。とてもいい企画をされているので、入館者数につなげるような努力をしていただければありがたいと思っております。

理事 平成26年度につきまして、マスコミ・新聞等で広報していただいたのが、外国語表記というもので、英文のチラシを作って、弘前大学・青森中央大学などに置いてもらいました。外国人の方に来てもらうチャンスというのも今まで極めて少なかった。まずは、あることを知ってもらい、紹介であったり、コーナーを作って知ってもらうという事を遅ればせながら実施してございます。地道な努力を重ねて参りたいと思います。

委員長 今、理事がおっしゃったように、確かに、弘前は外国語指導助手の方々が随分いますが、ネットワークというのはすごくて、芋づる式に伝わっていく。例えば、教育委員会の誰かに流すと結構流れて行くという事もあります。個人的に話をする、太宰が好きだったり、後から聞いてみると実は葛西善蔵が好きで商社で働いていたがカメラマンになったという人もいます。そういった発信の仕方はおもしろいと思います。これからも、ネットワークを使ったほうがいいと思います。教育委員会も繋がりがりますので、ぜひやったほうがいいのではないのでしょうか。

理事 教育委員会の外国語指導助手に、今回のポスター、チラシを作ってもらう時にこの話をお願いしました。市役所の商工観光部に韓国人職員（3ヶ年間）を雇用してございます。今年で2年目になります。彼女も講座を持ちますけども、彼女に来てもらって和文を英訳してもらう事もしていきたい。また、文学館と直接関係はございません

が、年明けに、韓国人の彼女が読み聞かせを日本語でする予定でありますけども、類似の民話ですとか、お話が外国にもあるということの足がかりとして広めていければという希望をもってございます。

委員長 弘前大学の留学生の人達なども来ていますね。他にご質疑・ご意見等はございませんか。

委員 私も入館者の話ですが、若いお母さん達とよく話をするのですが、郷土文学館の存在を知らない。どこにあるの、図書館の奥にあるとか。もちろん子供達は全然知らない。もっと小中学生にもアピールしてほしいと私はいつも思っています。学校の行事で全然触れることがまず少ないので、見学する機会を教育委員会の方で設けるなども考えてほしいと思っています。

委員長 小・中学校の段階で何らかの事業として取り上げる機会が増えないか。

委員 そのようにしないとまったく触れない。素敵な詩など触れることもなく、自分でも知らない。まず、学校の中でも図書室に行かないので、いくらそうやっても子供達が見ないし、いろいろ問題はありますが、考えていかなければと思っています。

理事 平成 26 年度から開始したことは、一つは、幸いに立地場所が公園の側にあるものですから、これは弘前市内にある学校だけではなく、各周辺市町村の生徒達も写生大会・社会見学などで公園に参ります。それで、洋風建築の旧市立図書館があるものですから、その見学の時に、文学館へも入ってもらっています。とにかく入ってもらって、わからなくても行ってきたと、そういう風な事を 4 月以降心がけて参りました。中学校の社会体験（職業訓練インターンシップ）などで、図書館に実習に来る子供たちにも郷土文学館を見てもらう機会をとる事も続けて参りたいと思っています。郷土文学館に学習で来る事が、ここ 20 数年の先生方自身の体験にありませんので欠落しているのだという事も真摯に受け止めています。

委員 今、言われたことに関わる事かもしれないのですが、ある市の施設での取材活動中の出来事です。「新年度の展覧内容について」取材をした時、ちょうど新年度予算の予算審議の最中で、当然、予算書の中身というのはマスコミの方に公表されているにもかかわらず、「予算が通るまでは事業の中身には一切触れてくれるな。」というようなスタンスでした。皆さんがそうだとは思わないのですけれども、予算審議の場こそ広く市民の方にお伝えして、この内容が果たしていいものかどうか、その声を拾い上げるようなスタンスが市には欠けているのではないかと。ここ 2、3 年の取材で感じた事です。今、おっしゃった、郷土文学館にあまり足を運ぶ機会がないというような事ですけれど、弘前市教育委員会で弘前人物志というのを出していますよね。それで、陸羯南の作文コンクールもやられているのですけれども、あれがどういう使われ方をしているのか。中学校の授業の中で万遍なく皆さんに読まれているのか。それを読んでここに来ようというような誘導とかあるのか。実は大事ではないかと思います。弘前人物志を読んで、郷土文学館へ足を運んで、館田専門官の話を聞いてみようとか。あるいは、館田専門官を呼んで授業でちょっとお話をしてもらおうとか、出向くというような姿勢がほしい。少ない職員で運営されて、それは非常に頭の下がる事だとは思っているのですが、もう少し努力する余地はまだあるのではないかと考えていました。

委員 弘前人物志に関して言えば、中学校の図書室に配付されただけで、アピールもなかった。

委員 道德の時間などで、何かしてますか。

委員 全然、していない。

委員 せっかく作っているのに予算がちょっと無駄になっているのでは。

委員 もったいないと、ボランティアのお母さんたちは言いますが、見た限りでは生徒はほとんど手に取らない。

委員 誰も手に取らないと、やっぱり、ここの存在にも結びつかないと思います。もちろん、子供たちが積極的に手にとれば一番いいのでしょうけれども、やはり大人の側からの働きかけがないと子供っていうのはなかなか興味を持たない。ゲーム・テレビとかある中で難しい事を書いている活字には手がなかなか届かないし、そうすると郷土文学館にも足が向かないと思います。

理事 3つほどお話が出たと思います。一つは議会との予算審議について。予算を提案して審議という事ですから、事務方としては決まっていな予算の事をさも決まって執行出来るかの如く話しをするという事について、議会軽視になるという気持ちになる。事務方として分からない訳ではないと思った次第です。ただ、それについて全般にどうこうという立場で言えないことです。

次に、弘前人物志の利用であります。これも市役所の縦割り行政の中で、よその課で使ったり、インターネット上で市役所の教育委員会HP上でも見られるようになったりと工夫をしていますから、学校の利用についてとやかく申す立場にはないのですが、具体的な本ですとか、物、実学として展示をする郷土文学館が、何らかの繋ぎに含め、それは行っていくべきだろうと当然だと思います。それについての努力はまったく欠けていたのだろう。それは、平成18年2月27日に合併をして新しい枠組みになって新弘前人物志を作っておりますけれども、いわゆる固定的な展示のままで郷土文学館はそのままです。新弘前人物志は、旧相馬村・旧岩木町のオリンピック選手であったり、文学であったり、社会教育の人間たちの活動についてすべからく網羅している訳ではないので、何か考えて行かなくてはいけないと思います。

最後ですが、出前講座の話。これは当然ながら必要だと思います。その受け皿、出かけていく所が確実に郷土文学館だけではなくていけないのか、学校の先生方であったり、いろいろな外部ボランティアをお願いするような育成、共に郷土を歩んで行くという事もしていけないと恐らく成り立っていかないだろうと、いろいろな問題について多様な要素がありながらの委員からのお話であったと受け止めてございます。

副委員長 郷土文学館の入館者問題の事です。弘前ペンクラブが指定管理者制度で指定管理をしている「太宰治まなびの家」も、今の時点（11月現在）で前年度マイナス700人です。ということは、1年目の数値の前年度、つまり指定管理を受けない数値とやや拮抗しているということで、つまり指定管理してもしない時も同じ。今少し盛り返したみたいですが、そういう状況です。企画とかイベントとかの数の違いもあるんですが。それよりもっと怖い問題は、大学に入って来る入学者数についての18年問題であります。18年前、出生率がものすごく極端に低くなっていて、18年後に問題

になるという事がずっと前から言われていました。どのくらい問題があるかという、去年を100%にすると、18年は84.6%まで落ちる。24年になると、つまり11年後には69%に落ちる。子供の数が、青森県の特殊事情というのがもう一つありまして、青森県全体で見ると、青森県の高校生が県内の大学に入るのが35%しかない。青森県は一応多いといえは多いのですが、それでも半分いかない。例えば宮城県は11%、山形2%、秋田2%、岩手5%などあるんですが関東では東京近辺が10数%。青森県出身でありながら地元の大学に入るとというのが35%しかいない。これが東北の中では極端に青森県だけが下がっている。この辺の問題というのが18年問題も含めて複合していると思う。先ほどお話があった、中学生の関心がないという事。実は一昨年、弘前市内の小学校校長会に呼ばれて、郷土文学館の常設展示の話をしました。今年は青森県全体の中学校校長会にも話をしました。弘前にそういう立派な人がそんなにいるというような声が聞かれ、ちょっとショックを受けた。ひとつには校長先生達に情報を提供しておけば何等かの形で、行事とかそういう所に働きかけて、1人でも2人でも働きかけてくれればいいのかなと。ただ、問題はそういう組織立ってやれる事でもっと浸透するのではないかと、そういう印象を受けました。だから、この対策というのは27年度対策だけではなく、あともうちょっと先に来る、69%まで落ちるというすごい衝撃的な数値が出ていますので、そこらへんも視野に入れていかないと、ちょっと長いスパンで考えないと、来年の事だけじゃなくて、2、3年後だけではなくて、長いスパンで問題については取り組まなければならないのかなと。これは郷土文学館だけではなくて、[太宰治まなびの家]、大学、高校、その他のところもそうです。だから、いろいろな複合的な問題があるので、腰を据えてじっくりと、ただ時間をあまりかけてもいられない問題もあるという気がしてきました。

委員長 お話を伺っていると、いかに何が出来たのではなくて、2年あるなら2年の中で長く考えていかなければいけない問題のような気がします。だから、今日これで何かが結論が出るような話ではないという気がしたので、もし、この他に今新しく意見がなければ次のほうに進みたいと思いますが如何でしょうか。

〔「異議なし」との声あり〕

委員長 次に、案件3について、事務局より説明をお願いします。

〔案件3 その他〕

企画展「陸羯南」について事務局説明。

委員長 案件3について、只今の説明に対して御質問、御意見ありませんか。

委員 陸羯南は本当にタイミングであるのですけれども、寺山修司も生誕80周年で、弘前は出生地にすぎないと言えはすぎないのですが、入館者数に拘っているわけではないのですが、「寺山修司展」を行った時との落差を考えると、事務局が説明した俳句を中心にとの事ですけれども、通年で何か、生誕80周年という事でやれる事もあるのかもしれない。人を呼べる題材ではないかと思います。寺山修司を弘前で取り上げると弘前で寺山修司とか、母、出生地の疑問、警察官の父親の事だとかが中心になる。寺山修司の行動はアバンギャルドであるし、彼の俳句も短歌も、彼のエッセイもすごい

時代が進んでいるものをたくさん書いていて、本来、寺山がフィールドとしてやった仕事を、弘前での母親の事などで矮小化しないでいたほうが良いような気がするのですよ。ただ、それだけの論陣を張れる人がいないということは重々承知な気はするのですが。まあ、三沢の記念館もあるし、手を組みながら、生地弘前だけではない寺山の世界を見せる工夫もあってもいいのかもしれないと思います。

事務局　　今回もそういう意味では、寺山修司に触れる機会のきっかけになるものが、俳句ではないかと思ひまして、一番分かりやすい世界から寺山修司文学に入っていければと、きっかけだけでも作ろうと思っておりました。

委員長　　他に何かございますか。それでは案件と審議を終了いたします。
理事兼郷土文学館長より挨拶があります。

理 事　　（あいさつ省略）

事務局　　それでは、これをもって平成 26 年度第 1 回弘前市立郷土文学館運営委員会を閉会します。

【郷土文学館調整】